



Empowered JAPAN in SAGA

開催レポート

2019年6月29日(土)

主催 / Empowered JAPAN 実行委員会 (事務局: 日本マイクロソフト株式会社)

共催 / 株式会社佐賀新聞社

後援 / 佐賀市、佐賀県、佐賀大学、佐賀商工会議所、公益財団法人佐賀県女性と生涯学習財団、
総務省、厚生労働省、国土交通省、経済産業省九州経済産業局、文部科学省、
一般社団法人日本テレワーク協会、特定非営利活動法人キャリアカウンセリング協会



「Empowered JAPAN 2019 in SAGA」開催概要

主催	Empowered JAPAN 実行委員会（事務局：日本マイクロソフト株式会社）		
共催	株式会社佐賀新聞社		
後援	佐賀市、佐賀県、佐賀大学、佐賀商工会議所、公益財団法人佐賀県女性と生涯学習財団、総務省、厚生労働省、国土交通省、経済産業省九州経済産業局、文部科学省、一般社団法人日本テレワーク協会、特定非営利活動法人キャリアカウンセリング協会		
プロデュース	アベニール・ジャパン株式会社	協力	有限会社テック・ステート
実施日時	2019年6月29日（土）13:00-17:30	会場	ホテルグランデはがくれ（佐賀県佐賀市）
参加人数	170名		
プログラム	Empowered JAPAN 2019 in SAGA Opening 実行委員長からのご挨拶	日本テレワーク学会 会長 Empowered JAPAN 実行委員会 委員長 東北芸術工科大学 デザイン工学部 企画構想学科 教授（工学博士） テレワーク月間実行委員長 東北都市学会会長 テレワーク推進フォーラム（総務省・経済産業省・厚生労働省・国土交通省主宰） 副会長 松村 茂 氏	
	共催・佐賀新聞社からのご挨拶	佐賀新聞社 編集本部 編集局長 大隈 知彦 氏	
	市長からのメッセージ	佐賀市長 秀島 敏行 氏	
	基調講演 「デジタル革命 ～激変する私たちの産業と社会～」	日本マイクロソフト株式会社 エバンジェリスト 業務執行役員 西脇 資哲 氏	
	来賓講演 「学び直しと社会参画 ～テレワークの可能性について～」	IT エバンジェリスト 若宮 正子 氏 EverySwitch 大坪 紗耶 氏（モデレーター）	
	パネルディスカッション 「～より豊かな人生に向けて～ テレワークなどの働き方改革と学び直しが、 全国の個人と企業にもたらす可能性」	[来賓挨拶] 衆議院議員 前 総務大臣・女性活躍担当大臣・内閣府特命担当大臣 (男女共同参画・マイナンバー制度) 野田 聖子 氏（テレワークにてご挨拶）	
		[パネルディスカッション] 村田麻記子氏（木村情報技術株式会社でテレワーカーとして就業中） 株式会社新閃力 代表取締役 Empowered JAPAN 実行委員 尾崎えり子 氏 木村情報技術株式会社 AI 事業部課長 堤 絵利子 氏 佐賀市経済部 副理事 兼 工業振興課長 大野 雅生 氏 日本テレワーク学会 会長 Empowered JAPAN 実行委員会 委員長 松村 茂 氏 日本マイクロソフト株式会社 宮崎 翔太 氏（ファシリテーター）	
	佐賀における 個人向け・企業向け研修プロジェクトの発表	千葉県 流山市より テレワーク にて参加	
	日本マイクロソフトから挨拶（クロージング）	日本マイクロソフト株式会社 政策渉外・法務本部 地方創生担当部長 Empowered JAPAN 実行委員会 事務局長 宮崎 翔太 氏	
懇親会	日本マイクロソフト株式会社 執行役員 政策渉外・法務本部長 Empowered JAPAN 実行委員会 副委員長 アリス・グラハム 氏		
別室にて 同時開催	お子様向けワークショップ 「大人気ゲーム Minecraft、マイクロビットで学ぶプログラミング体験ワークショップ」 対象：小学生 参加人数：23名		



ロゴに込められた思い

Empower(エンパワー)には「力づける」といった意味があります。既に力を持ち、無限の可能性がある個人、企業(団体)、そして自治体が連携して、テクノロジーと学び直しを通じ、日本全体を更に高いステージに押し上げていくというメッセージをJapanの「J」に込めています。

当初の予定では100名ほどの席を用意していましたが、本日は160名ほどがいらっしやっています。大変多くの方に関心を持っていただき、ありがたく感じています。

Empowered JAPANは、昨年春に「Empowered Woman JAPAN 2018」という形でスタートし、おかげさまで全国でたくさんの方の参加をいただきました。

Empowered JAPANのプロジェクトに対して、皆さんは今日、どんな関心を持ってお越しただいでいるのでしょうか。働き方改革、テレワーク、学び直し、リカレントなど、様々なキーワードがあります。また、働きたくてもなかなか働くチャンスや仕事が見つからない人や、自分のキャリアをアップしていきたい、働きながら学びたいという人も、日本中にたくさんいます。女性に限らず、そうした皆さんと一緒に活動していこうという思いを込めて、今年からWomanを外してEmpowered JAPANとなりました。

皆さんは、働くこと＝オフィスに行くことだと思っていないでしょうか。テレワークは「離れた場所で働く」という意味の造語で、少しずつ広まりを見せていますが、正しい理解はまだ進んでいません。「在宅勤務でしょ」と思っている方もたくさんいますね。政府が進めているテレワークでも「通勤混雑緩和」「介護や育児をされる方が在宅で働く」など、在宅での働き方が優先されています。

私たちEmpowered JAPANは、次のテレ

ワーク社会を考えて取り組みを進めています。それは「ワーカー（働く人）の時代」と言い換えることができます。どんな仕事を選ぶかはもちろん、仕事をする場所も選べる。そんなふうには、ワーカーが様々な自由を選択できる社会です。仕事のために佐賀を離れなければいけない、東京や大阪に行かなければいけないという時代ではなくなっているのです。

また、誰でも働ける「ダイバーシティ（多様性）」や、「労働時間の選択」、「時間配分」もテーマです。オフィス以外の好きな場所でも好きな時間だけ働ける。朝の2時間、夕方の2時間、早朝、お昼の後、子どもが学校から帰ってくる前の1時間など、細切れに働くことも、テレワークなら可能です。

最後に「場所の自由」です。テレワーク、特に在宅勤務には、離れた場所で一人で働くというイメージがありますが、実際にはテレワークは在宅勤務だけではなく、好きな人と一緒に働くことができる魅力的な働き方です。子どもと一緒に、親のそばで、大切な人のそばで働ける。仲間と一緒に働ける。会社がどこにあっても働けるのです。地域の側は、どこでも働く人を受け入れられるので、佐賀市で働きたいと思えば移住して働くこともでき

ます。調査では、東京から地方に出て行きたい人が加速度的に増えていきますし、移住も非常に流行っています。ワーカーの時代とは、ワーカーが主体的に選択し、仕事を探して働く時代のことなのです。そしてそういうことができるのは、今はものを作る仕事ではなく、情報を扱い、人の頭の中で仕事を行う時代になったからです。未来とは、オンラインで人と人がつながった社会のことなのです。

Empowered JAPANは、今年佐賀でも開催します。本日の講演やディスカッションを通じて、より多くの方にこのプロジェクトに参加いただければと思います。



日本テレワーク学会 会長
Empowered JAPAN 実行委員会 委員長
東北芸術工科大学 デザイン工学部 企画構想学
教授（工学博士）
テレワーク月間実行委員長 東北都市学会会長
テレワーク推進フォーラム（総務省・経済産業省・
厚生労働省・国土交通省主宰）副会長
松村 茂氏

お子様向けワークショップを 同時開催しました

「Empowered JAPAN 2019 in SAGA」の会場別室では、小学生23名を対象とした「大人気ゲームMinecraft、マイクロビットで学ぶプログラミング体験ワークショップ」を開催しました。

講義形式でプログラミングの基礎を学んだ後、プログラミングを実践し、最後に作品を発表するというもので、真剣な表情でプログラミングに打ち込む子どもたちの姿が見られました。



共催・佐賀新聞社からのご挨拶

私自身は新聞記者で、実にアナログな仕事しかしたことがありませんが、ICTの進展で記者の仕事も随分変わりました。平成元年から新聞記者をやっていますが、当時は原稿は手書き、写真はフィルムの時代でした。社内で仕事をするにはそれで支障はなかったのですが、甲子園やインターハイなどの取材では苦労をしました。取材が終わって宿泊先のホテルに戻ると、まず佐賀から送った荷物をほどいて、大きなファックスを設置したり、カメラマンはバスルームに暗幕を張って暗室にしたりと、仕事をするための準備の作業にかなりの時間をとられる時代でした。それが今では、カフェやファミレス、自宅で原稿を書いても全然支障がありません。いつでもどこからでも原稿や写真を送れますし、今この瞬間にも、ポケットの中のスマホで通信社からのニュースをどんどん受け取っている。そういう時代になっているのです。

市長からのメッセージ

私が佐賀市役所の職員として採用されたのは、昭和41年でした。市役所にあったのは、そろばん、計算尺、手回しの計算機という時代でした。それから約50年、電算化で様々なシステムが変わり、さらに今、テレワークに変わろうとしています。そのような中で、「いつでもどこでも誰でも、働き、学べる世の中へ」というEmpowered JAPANの理念に、私も心から敬服しています。

働くことは、人間にとって大きな喜びの一つであり、私はすべての人とその喜びを共有したいと思っています。市長になって以降、私は発達障がいへの対応に力を入れてきました。発達障がいの方はいろいろな個性をお持ちで、得意分野で大変な能力を発揮される一方で、人と一緒に仕事をしたり周りのペースに合わせて仕事をするのがやや苦手という人もたくさんいらっしゃいます。テレワークは、こうした方にも個性を活かして働くチャンスや喜びを提供できるものと期待しています。佐賀市内で発達障がいの診断を受けた小中学生は、ここ6年で年々増加し、小学生の8.8%、中学生の6.8%に上ります。

しかし、仕事のやり方は変わったものの、働き方や、効率化したことで生み出される時間の使い方、勤務形態などはあまり変わっていません。これからは、ICTをどう生かしてどんな働き方をしていくかを真剣に考える時代です。人口減少、人手不足が進んでいますから、多様な働き方に向けていかに準備するかは、会社にとって人材確保の面でも非常に大切になっています。

先日、テレワークを当たり前にするという理念を持った東京のあるベンチャー企業の記事を読みました。700名以上いる従業員は、基本的に全員がテレワークで出社義務はなく、本社のオフィスも実質的に存在しないそうです。そういう企業が増えたと、転勤や単身赴任もなくなってくるでしょうし、オフィスビルが不要になれば街の形、都市の形が変わってくる可能性さえあると思います。それがどのくらいのスピードで進むかわかりませんが、確実に大きな変化をもたらしてく

るでしょう。

どう働くかは、どう生きるかと同じです。本日のイベントが、理解を深め、これからさらに日本を進める契機になればと思っています。

佐賀新聞社 編集本部 編集局長

大隈 知彦 氏



こうした子どもさんにできるだけ早く教育・訓練の機会を提供して症状を和らげられればと考えています。さらに次の段階として、こうした方々のトータルライフを考える必要があります。社会の中で自立するために働く場を提供する、という観点で、テレワークには大きな期待が寄せられています。

また、私たち佐賀市のような地方都市では、若い人を中心とする人口減少に悩んでいます。それに歯止めをかけるために働く場を確保する必要があり、従来は企業誘致に力を入れてきました。そんな中で、2016年10月に西日本で唯一のマイクロソフトイノベーションセンターができ、それに続いてIT系企業が佐賀に進出してきてくれるようになりました。昨年度は7社が進出し、約450名分の雇用の場を確保していただきました。

佐賀市は暮らしやすさ、子育てしやすさで全国のトップクラスに位置付けられています。都市化された部分もある一方で、田舎の風景も残っています。食べ物も水も空気もおいしく、生活環境がよいこの地で、テレワークによって東京や福岡にいるのと同じように

仕事ができるのです。また、佐賀市の優秀な人材を企業が遠隔で採用することで、オフィスを開設することなく佐賀市とつながりができる新しい形の企業誘致にも期待しています。素晴らしい生活環境と魅力的な仕事という、これまで共存が難しかったものを結びつけるのがテレワークであると信じています。

佐賀市長

秀島 敏行 氏



デジタル革命 ～激変する私たちの産業と社会～

日本マイクロソフト株式会社
エバンジェリスト 業務執行役員
西脇 資哲 氏



先進の IT やデジタル技術のプレゼンテーションに加えて、AIをはじめとする最新技術を活用したデモンストレーションを行いました。その一部をご紹介します。



エネルギー管理システムがインターネットにつながることで、ビルや店舗の省エネ・防犯対策などを遠隔で最適化できるようになります。また、個室トイレの空き状況をデータとして取得し、アプリで確認できるようにするといった活用もなされています。



スターバックスでは、コーヒーマシンがIoT化され、コーヒー抽出量の管理だけでなく、各地域の水温、気温、湿度に適したコーヒーを出せるようコントロールされています。家畜の管理や、医療施設でこれから容体が悪くなる人の予測などにもIoTは活用されています。

PowerPointの「サブタイトルをスタートする」という機能を使うと、マイクに向かって話した内容を即文章化できます。他言語対応で疑問文なども正確に理解して表示が可能。さらに、手書きの文字を見分けてテキスト入力することもできます。



会場から無作為に選んだスタッフをカメラで撮影すると、AIが性別や年齢、容姿を読み取って教えてくれるというデモンストレーション。統計上のデータから判断するAIは、物事を精緻に当てるのではなく「外さない」ということが重要だと語られました。



東京の自宅にいるマイクロソフト社員をTeamsで呼び出すデモンストレーション。AIが人物を判別し、背景を自動的にぼかす機能があるため、プライバシーを守ることができます。英語で話した内容を自動的に字幕として表示することも可能です。



将来、世界の仕事の何割かをAIが奪い、今ある仕事の65%は全く新しい仕事になると言われています。しかし、相手の気持ちを汲んでコミュニケーションをとること、カリスマ性やひらめき、0から1を生み出すことなどは人間にしかできないことなのです。



AIが人間と同じレベルになり、私たちの代わりに役目を担うようになってきました。この素晴らしいAIやインターネットの力を私たちの働き方改革に活用すれば、あらゆる壁が取り払われ、いつでもどこでも誰とでも、安心して働くことが可能となります。

そんな時代だからこそ、人間が持っている素晴らしい本質に目を向けて、私たちの能力を磨き、それで競争をしていくべきです。今のほとんどの教育機関では「インプット教育」が中心ですが、これからは「それに対してどう思う?」という問いかけに子どもたちが応えることで発想を豊かにする「アウトプット教育」が重要になるでしょう。

人間の人生は、生まれたときから豊富に学び、豊富に伝えることの連続です。赤ちゃんはミルクをもらったり抱っこしてもらったりするために懸命に方法を考え、泣いたり動いたりします。就職する、働く、時にはパートナーを見つける、それらもすべて学びと伝えることの連続でできているのです。

学び直しと社会参画 ～テレワークの可能性について～



これからの学びとは、 やりたいこと、やるべきことを決め 自らやる勉強のこと

テレワークとは何かとよく聞かれるのですが、私は「インターネットやコンピューターを使って、働く場所や時間を決めないで仕事をする柔軟な働き方」「通勤に不便な所に住んでいても、育児や介護をしても仕事ができる新しい働き方」だとお話しています。新しい働き方は、あなたの世界を拓けてくれます。遠く離れた人と一緒に仕事することで出会いがある。仕事を通じて新しい社会を知ることできる。そして、収入も選ぶことができるのです。自分のお金を持つことは自立を助けてくれます。今まで買いたくても買えなかったものが買えるだけでなく、自分に再投資する、自分を再教育するお金を確保することができるからです。一般的な家庭では、まず子どもの教育投資をしますし、少し余裕がある家では夫がよりよい職業に就けるよう資格を取ることに使うなどが多くなりがちです。妻が自分の再教育のために投資することは、なかなか難しいのが現実でしょう。しかし、私たちも自分に投資をすれば、より高度な知識が得られ、より高度な収入を得る可能性もあるのです。

テレワークを始めるには「まず学ぶこと」です。そう言うと、皆さん「30歳を過ぎたのにまた勉強？何を勉強すればいいの？学校に行く時間もお金もないわ」となりがち

です。しかし、これからの学びは、私たちが若いときの学びと違います。義務教育や先生に言われてやる宿題、単位を取らないと落第する、高校に上がれなくなるなど仕方なく受けてきたものとは異なるのです。これからの学びとは、自分が主体性を持ってやりたいこと、やるべきことを決めて、自分からやる勉強のことです。だからこそ、学ぶ楽しさが発見できるのです。

誰にとっても学び直しは必要です。人生100年時代を考えると、義務教育の勉強などはとくに頭から消去されているので、新しいネタを仕入れなければなりません。さらに、進歩と変化の激しい時代では、仕事も仕事のやり方も変わりつつあります。そんな時代やるべき勉強は新しく始める仕事の役に立つことになります。

いつでもどこでも学ぶこと エストニアの大学で感じた未来

今はネットやテレビを使えば大抵の勉強はできますし、これからはさらに充実していくでしょう。もちろん、自分で調べるのが一番身に付きますが、それでもわからないことは、後輩やお子さん、お孫さんなど自分より若い人にどんどん聞く癖をつけましょう。先に生まれた人ではなく、ある分野で自分よりも優れている人が先生だと、私は思っています。学び続ければ、学びの楽しさを知ることができるし、自分の世界を広げることができます。広がった世界で、さらに新しい、あな

たにとってやりがいのある仕事が発見できるかもしれません。

先日、エストニアを訪問する機会がありました。電子政府が進んでいることで有名な国ですが、そこで大学の卒業式に行きました。驚いたのは、卒業生として卒業証書を授与された70%が女性だったこと。しかもほとんどが年配の方で、多くの方が子連れだったことです。この方たちは自分から勉強して、社会に出て働いて、あるときは子育てして、また別な分野やさらに進んだ勉強をしているのです。例えば、修士課程でも通学なしで遠隔授業だけで取れる単位もあるので、出産の前後などはその仕組みを使ったりしています。ですから、修士課程で卒業証書もらう頃になると、結果的にある程度の年齢になります。卒業後は社会に出て働いたり、博士課程に進まれる方もいるでしょう。エストニア政府としては、才能がある人は男の人でも女の人でも外国人でもいい。その人の能力を精いっぱい成長させ、自分の国のためにその才能を使いたいという考えなのです。

エストニアの卒業式で感じられた未来は、私たちの生活もこれからは、学びも仕事も家庭も並立する、そんな時代に入ってくるということを感じさせてくれました。

若宮正子氏の著書
『独学のススメ 頑張らない！
「定年後」の学び方10か条』
中央公論新社
(中公新書ラクレ (655))



写真右
ITエンジニアリスト
若宮 正子 氏

1935年東京生まれ。東京教育大学附属高等学校(現・筑波大学附属高等学校)卒業後、三菱銀行(現・三菱UFJ銀行)へ勤務。定年をきっかけに、パソコンを独自に習得し、同居する母親の介護をしながらパソコンを使って世界を広げていく。1999年にシニア世代のサイト「メロウ倶楽部」の創設に参画し、現在も副会長を務めているほか、NPO法人ブロードバンドスクール協会の理事として、シニア世代へのデジタル機器普及活動に尽力している。安倍政権の看板政策「人づくり革命」の具体策を検討する「人生100年時代構想会議」の最年長有識者メンバーにも選ばれた。

写真左
EverySwitch
大坪 紗耶 氏 (モデレーター)



～より豊かな人生に向けて～ テレワークなどの働き方改革と学び直しが、 全国の個人と企業にもたらす可能性

衆議院議員・野田 聖子氏にテレワークでご挨拶をいただきました

昨年、担当大臣として「Empowered Woman JAPAN 2018」に参加させていただき、大きな可能性を感じました。一歩進んだ今回の「Empowered JAPAN 2019 in SAGA」に、会場に参加したいという気持ちも強かったのですが、テレワークがテーマということもあり、あえて遠隔地からテレワークでご挨拶とさせていただきます。

テレワークというのは新しい仕組みのように感じられますが、取り組み自体は20年程前から始まっています。ただ、当時はツールやシステムも発展途上で、コミュニケーションがうまくとれませんでしたし、テレワーク自体のニーズもありませんでした。社会自体も、女性活躍社会の実現を目指す現在とは異なり、男の人が働いていれば大丈夫という風潮だったように思います。

昨今私たちも、政府の方針のもと、女性もしっかり働き続ける社会を目指していますが、一方で育児や介護のほとんどを女性が担わなければならないという現実があります。もちろん、本来ならば夫と分かち合わなければならないのですが、なかなか理解が進まない状況の中、テレワークは非常に有効であると理解しています。

さらに、女性の活躍にとどまらず、これから社会にとって有効な働き方を考えたとき、

すべての人が会社に出勤する必要があるのかという疑問も浮かびます。地方の方が東京の会社で働くために東京に出る必要があるのなら、それを変えることが本来の働き方改革のひとつの形ではないでしょうか。テレワークは、男性である、女性である、障がいの有無、さらには年齢にかかわらず、働きたい場所で働きたい仕事をしっかりできる状況を実現できる可能性を持っているのです。

今回、プロジェクトの成果の一端として、流山市の皆さんが場所を変えずに佐賀の企業で活躍されている事例が紹介されると伺っています。様々な事情を抱える個人にとって有効であり、人手不足に悩む企業の人材確保の点からもメリットのある取り組みがテレワークなのです。さらに、すべての企業にとって、生産性を上げ、残業などを減らしていくということにも役立つことから、国際社会の中で日本がどのようにSDGs（持続可能な開発目標）に貢献しているかという点でも、大いに力を発揮できると考えています。

残業という観点から、最近感じた事例を挙げさせていただきます。私は超党派のママパパ議連の会長を努めているのですが、そこで、日本を担い、私たちの将来を預かって各役所の官僚の人たちが過酷な残業に縛られているという



衆議院議員 前 総務大臣・女性活躍担当大臣・
内閣府特命担当大臣
(男女共同参画・マイナンバー制度)
野田 聖子 氏 (テレワークにてご挨拶)

実態を知りました。現役官僚1,000人のうち、直近1年間で最も忙しかった月の残業時間が過労死ラインである月100時間を超えている方が、なんと68.5%という報告を受け、非常にショックでした。この方々も誰かのパパであり、誰かのママであります。官僚だからたくさん残業してもいいということではないはず。国や企業を含めたすべての方々が、働き方を考え、すべての人々にとって幸せな形に改革していく必要があるのです。

私たちは、テレワークを通じてそれぞれが幸せになれる、そういう社会をつくっていくために、まずは今日、佐賀を中心に、地方が変われば日本が変わるということを示せればと思います。皆さん、一緒にがんばっていきましょう。



～より豊かな人生に向けて～

テレワークなどの働き方改革と学び直しが、 全国の個人と企業にもたらす可能性



テレワークとは 「誰かと一緒にいたい」を 実現するための働き方

宮崎 2018年、日本マイクロソフト株式会社は「女性と企業が双方で学ぶ、場所に捉われない働き方」を掲げ、千葉県流山市、佐賀県佐賀市、愛知県岡崎市、群馬県みなかみ町の全4地域で「ウーマンテレワーク体験プログラム」を実施しました。働く側としてはテレワーカーとしてのキャリア構築、企業側からは遠隔人材の採用を通じて、会社に物理的にいること＝仕事をしているということではなく、成果で評価するということや、出社という前提をなくした就労体系の可能性を検証するプロジェクトでした。今回は、ご参加いただいた関係者の皆様にお集まりいただき、良いことばかりではなく、課題も含めたリアルな声から、テレワークなどの働き方改革と学び直しが、全国の個人と企業にもたらす可能性について、一緒に考えていきたいと思っています。

松村 テレワークといえば、一般的には時間と場所に捉われない柔軟な働き方と言われていますが、私は「誰かと一緒にいたい」という思いを実現するための働き方だと思っています。そしてもう一つ、パラレルワークや副業という言葉がありますが、テレワークは二つのことを同時にできる働き方でもあります。今日の講演でも出ている「働くこと」と「学び直し」、これが同時にできる働き方です。今、多くの皆さんが一つの会社で一生懸命働いていますが、それしかないというプレッシャーや大変さを感じている方も多く、それよりも、二つの会社で働いたり、一番好きなことをやっているとしたら、どれだけ楽でしょうか。つまり可能性を広げる働き方、それがテレワークだと思います。もちろん、自分の能力を実際にどう企業が買ってくれるか、それをどのようにテレワークという手段で実現するかなど、お互いのマッチングはなかなか難しい。これらをどう仕組み化して解決していくかというのが今後の課題だと考えています。

宮崎 テレワークに代表される新しい働き方が、多くの会社で今、実際に活用されていることを体感していただくために、今回はマイクロソフト社製品のオンライン会議ソリューションTeamsを活用し、遠隔地の方も交えてディスカッションを実施します。私以外の舞台上の3人は、目の前にあるパソコンで、千葉県流山市にあるサテライトオフィスにつながっています。その流山市から、まずは、本プロジェクトで教育設計を担当していただいた尾崎さんに、昨年のプロジェクトの成果を教えていただきたいと思います。

多様な経験が集まることで 広がるテレワークの可能性

尾崎 流山市のプログラムでは、20代から60代まで幅広い年齢層の女性14名が受講しました。離職をした理由も様々で、子育てや介護、夫の転勤、自身の病気などで仕事を離れたけれど、もう一度テレワークでチャレンジをしたいという方々が集まりました。



[パネリスト]

日本テレワーク学会 会長
Empowered JAPAN 実行委員会 委員長
松村 茂 氏

日本マイクロソフト株式会社
宮崎 翔太 氏 (ファシリテーター)

[パネリスト]

木村情報技術株式会社 AI事業部課長
堤 絵利子 氏

佐賀市経済部 副理事 兼 工業振興課長
大野 雅生 氏

[テレワークで参加]

村田麻記子 氏
(木村情報技術株式会社で
テレワーカーとして就業中)

株式会社新開力 代表取締役
Empowered JAPAN 実行委員
尾崎えり子 氏

宮崎 翔太

松村 茂

堤 絵利子

大野 雅生



皆様の経験も多様で、デザイナーやエンジニアなどテレワークが比較的やりやすい職種だけでなく、営業や企画、人事、秘書、MR（医療情報担当者）など、様々な経験をお持ちの方々でした。日本人だけでなく、外国人の方も受講していただきました。結果として、14名が参加し、12名がテレワーカーとして採用されました。教育プログラム実施1年後の継続率は90%。都内の企業のみならず、佐賀の企業でも1名雇用していただき、今日は当事者である村田さんのリアルな話も聞けることになっています。

宮崎 プログラムを通じて、流山から引っ越すことなく、東京の会社や佐賀の会社で働く経験を実現できたということですね。今回、その1名を採用した企業が、堤さんの所属する佐賀市の木村情報技術様です。

堤 私たち木村情報技術は、佐賀市に本社を置くIT企業です。昨年夏ごろ、マイクロソフト様よりテレワークの取り組みに参加したい企業を探しているということでお話をいただきました。正直、具体的にどういう取り組みでどういうミッションなのか、詳しくはわかっていなかったのですが、まずやってみようかなと。結果として、流山市という遠隔地で村田さんという優秀な人材を確保することができたのは、とてもありがたいことでした。

村田 私は千葉県流山市で、子育てをしている主婦です。以前勤めていた製菓会社を、出産を機に退職しました。子育てはすこ

く楽しかったのですが、また仕事をやりたいと考えたとき、フルタイム勤務は家族の理解を得られず、断念しました。そこで、子どもがいてもできるパートを探してみると、内職と集金業務など、ただ「こなす」だけの仕事が多く、すごく物足りなさを感じていました。下の子が幼稚園に入るタイミングで少し時間ができたので、もう少し仕事を増やしていきたいと探していたところ、このプログラムに出会いました。最初からすぐ職業に就けると思っていたわけではなく、これからどういう仕事ができるのか自分でもわからなくて迷っていたので、まず働ける準備をしておこう、パソコンのスキルだけでも身に付けておこうという目的で参加しました。現在の仕事は、薬剤師が過去に受けた質問などをまとめてシステムに入力し、同じような質問を受けたときにすぐに検索できるシステムをつくるお手伝いをしています。

宮崎 テレワークのインターンを含めて、直接会ったことのない村田さんを、それでも採用したのは何が決め手だったのですか？

堤 今回のプロジェクトで、3人の方と数週間のプログラムを実施したのですが、終了後に村田さんから「私、働きたいのですが、どうですか」というメールをいただきました。こんなに早くアクションが来ることを全然想定していなかったので「この方は前向きに自分から行動していけるんだな」と強く感じ、すぐに履歴書を送っていただき、テレビ会議

で面接しました。私たちは、当社の考えを理解して一緒に働いていただける方をずっと募集していたので、村田さんとテレワークでお話した時に、その行動力はもちろん、お人柄であったり、私たちに対して共感いただける姿勢というのを強く感じて、すぐに採用を決めました。確かにそれまで直接会ってはいなかったですね（笑）。

私たちのお客様は佐賀には少なく、ほとんどが東京圏です。私も小学3年生の息子がおりまして、子育てをしながら、月に何回かお客様との打ち合わせに出張に行くのですが、丁度千葉のお客様を往訪する際、村田さんのご自宅近くだったので同席をいただきました。その時に初めてお会いしたのですが、あまり初めての感じがなくて…同年代ということもあり、抵抗もなく、前から知っているような感じでした。ただ、テレビ会議だとサイズ感がわからなくて（笑）。お会いした時に、同じぐらいの身長だと感じたのを覚えています。

宮崎 新しい働き方を試してみようと思う会社も、個人も、なかなか定着せずに3カ月で辞めてしまうというようなケースも多く聞かれます。例えば、昨今の働き方改革の観点からも、目に見えない場所で働く社員の方が働き過ぎてないかなどの心配などにはどのように対処されているのでしょうか？

堤 正直、がんばり過ぎてないかという心配はあります。私たちは、会社から支給しているパソコンのログ管理やビジネスチャット



～より豊かな人生に向けて～

テレワークなどの働き方改革と学び直しが、 全国の個人と企業にもたらす可能性



を使い、始業と終業を知らせていただくなど、会社全体として既に導入している業務管理システムなどで報告をしてもらっています。

宮崎 テレワークというと「あまり効率良く働いていないんじゃないか、家でテレビでも見てるんじゃないか」というような心配から抵抗を持たれる方もよくいらっしゃいますが、それに関してはいかがですか？

堤 私たちとしては全くないですね。会社に出社していてもサボる人間はサボりますし、どこにしようと同じことかなと(笑)。私たちはある意味従業員の時間を購入しているわけですが、その中でどれだけ成果物が出てくるかというほうをやはり気にしています。成果という面で、村田さんの働きぶりは全然心配することはありませんでしたね。

人材不足に悩む 地方都市にとっては 全国から優秀な人材を 獲得するチャンスに

宮崎 企業が人材不足に悩む現状は、佐賀だけでなく全国的なものです。また、働きたいけれども働いていない個人が多く存在しているのも事実です。佐賀市としては、今回の取り組みについてどのようにお考えですか。

大野 人口、特に若者が減少し、人手不足が生まれているのは、どこの地方都市でも同じような状況です。人手不足あるいは人

材を確保したいという佐賀の企業にとっては、テレワークは全国から優秀な方を獲得するチャンスでもあり、新たな雇用手段としても非常に重要なことだと思います。

松村 今回の例で言えば、佐賀の会社が東京の人材を活用しているということになります。実は東京の企業のテレワーク導入率は10～20%ほどで、実際に東京でテレワークをしている方はそれほど多くありません。一方で、地方では人手が足りない。東京で働きたいという方がたくさんいて、テレワークのような形であれば力を発揮できるのに、東京ではテレワークがなかなか進まない。ですから、地方の企業が東京の人材を活用できるという部分で、テレワークは地方の大きな武器になるのではないのでしょうか。

尾崎 流山市は秋葉原まで電車で20分、かなり近いとも言えるのですが、介護にしろ、子育てにしろ、どこかの施設に一度寄って、さらにそこで何か起こったときのためのバッファを考えると、結局1時間半ぐらいの余裕を持って家を出ることになります。結果的には通勤が往復で3時間かかることになり、やはり女性、子育て世代、介護世代が働き続けるのは大変な状況です。このような環境の方々にとって、テレワークは有効な解決手段の一つですが、私たちはさらにサテライトオフィスをつくっています。在宅勤務ですと、スキルをシェアしたり、周りかどのような働き方をしているのかなどの模範事例の

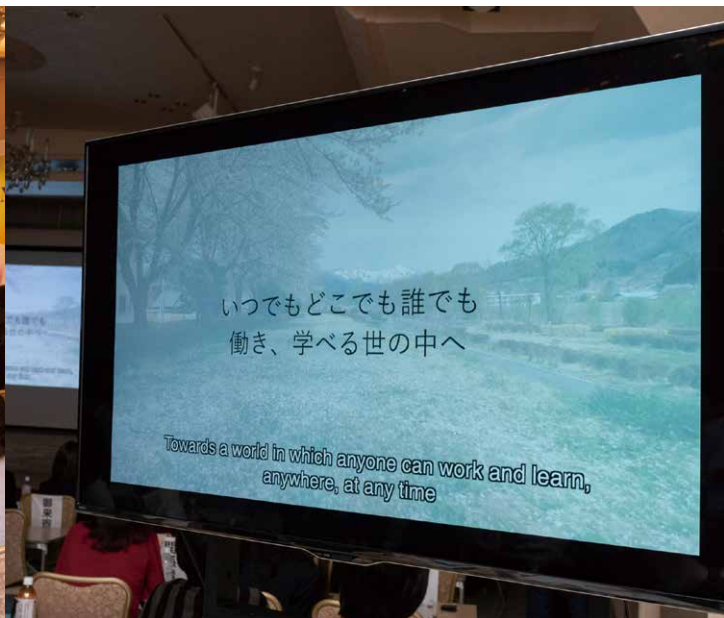
機会が限られるので、不安や成長の妨げになりかねません。ですから、テレワーカーの皆さんが集まって働ける場所をつくっています。

宮崎 例えば、朝サテライトオフィスに出社して、Aさんは東京の会社、Bさんは北海道の会社、Cさんは佐賀の会社の仕事をして、お昼休みにはご飯を一緒に食べながら情報や悩みを共有できる…というような機会があるということでしょうか？

尾崎 はい。ランチタイムはテレワークの悩みをみんなで共有して、他の会社のやり方を聞き合ったり、子どもがこういう病気になったけれどもどこの病院がいいとか、地域の情報まで、幅広くみんなでシェアをしていますね。

宮崎 堤さんのお話から、村田さんについては、佐賀から流山の距離とは思えないぐらい強い信頼関係を感じるのですが、実際に村田さんが流山で働かれていて、不安ややりにくいこと、あるいは気を付けていることはありますか？

村田 会社の方々には自分がどう思われているのかなという不安は常にあります。何か言い過ぎてないかなとか、意思の疎通が取れているのかなという不安は、日々抱えながら仕事に励んでいました。今はLINEで仕事のやりとりをしているのですが、お互いに様々な工夫をしています。文章で伝え合うのが基本ですが、わからないときはパソコンの画面共有などを活用して教えていただきながら作業しており、今のところ不便を感じるこ





となくできるようになっています。私が担当しているのは仕事の一部でしたので、本当に役に立っているのかも不安だったのですが、一緒にお仕事をしていた先輩が「薬剤師の方が喜んでいて」というお話を伝えてくれて、少しは力になれているかなと、やりがいを感じることができました。

尾崎 確かに、テレワークにおいてコミュニケーションは大きな課題の一つです。会社のように、上司が隣にいて、情報も仕事も給料も、自分から何も言わなくても与えてくれるような環境はありません。待っていても「悪意のない放置」をされがちですから、自らアクションを起こすことが大切です。ですから、教育プログラムでもまずはマインドセット研修をします。会社ば何かあれば言ってくれればいい」と思い、働く側は「言えば迷惑になるんじゃないか」と遠慮し合ってしまう働けない。結果「テレワークって何となく生産性が低いよね」と言われて終わってしまう。そのような事態を避けるために、きちんと聞き、フィードバックし合えるコミュニケーションが、テレワークにおいては非常に大切です。自分が思ったことはきちんと言って、相手から言われたことは善意100パーセントで受け取ることが大切。遠隔で心配し始めると、不安な気持ちが大きくなって、働く邪魔になってしまいますから、マインドはすごく重要なのです。その点は、今回の教育プログラムにもしっかり組み込んであります。

働き方が変われば、 企業誘致の流れも変わる

宮崎 先ほど企業誘致という言葉がありましたが、テレワークのような働き方が当たり前の中になれば、企業誘致の形もまた

変わるのでしょか？

大野 例えば、大きな会社が1社誘致できれば、100人の雇用が生まれます。小さい事業所では、10社でようやく100人という形です。ところがこの仕組みであれば、企業が直接事業所を佐賀に設置しなくても100人以上の雇用が生まれる可能性があり、非常に期待できると考えています。

尾崎 私が大切だと思っているのは「仲間」です。テレワークは会社の中で、まだそこまで多くの人が使っているわけではないので、一人だと孤独感を感じてしまいます。ですから、社内にテレワークを行っているお手下本がいなかったとしても、このEmpowered JAPANで出会った方が同じ地域で同じ働き方をしている、がんばっている人たちがいるということがすごくモチベーションになるはず。同じ働き方をしている人たち同士がつながる、仲間になることが大切ですね。

村田 実際に働いてみて、自分が1年間続けられた理由の一つに、毎日同じ先輩がフォローしてくれているというのがあったのではないかと感じています。いろいろな人に入れ代わり立ち代わりでいろいろなことを言われると、こちらもわからなくなってしまうので、担当者のように私に本当に付いてくれた先輩がいたことで、うまく成り立っているのだと思います。

堤 当社にとっては、テレワークは一つのツールであり、重要なことは優秀な人材を集めるということです。必ずしも近くにいる必要がないので、日本中の方とつながって、優秀な人材と知り合える可能性があります。さらに、会社のことをわかってきて、私たちの会社に合う方が来てくれたら素晴らしいですね。おそらく、企業の中で整備しなければならぬ部分は出てくると思いますが、

やってみると意外にできるのだなというのが実際にチャレンジしてみた感想です。

大野 テレワークというのは、何となく小さい幅の中のコミュニケーションのツールのように感じますが、実際には相互コミュニケーションから新たなコミュニケーションが生まれてくることもありますし、これからさらに期待できるのではないのでしょうか。対面でなければならないということではなく、真にコミュニケーションの広がりを生み出す機会になり得る可能性を感じました。

松村 テレワークとは「誰と一緒にいるのかということ大切にすること」です。地域の誰かと一緒にいたいとか、子どもさん、親御さん、あるいは地元で会社の違う仲間がいる。その仲間の人たちと一緒に働けるということではないでしょうか。そういう意味では、テレワークとはすなわち「私たちワーカーがすごい夢を持つ」ということだと思います。私たちは夢を持って、それを実現するのです。

私はテレワークの魅力として、学ぶことも働くこともできる、パラレルなことにトライできるということも考えています。そしてもう一つ、地域が東京を使うことができるという部分もテレワークの良さだと感じます。佐賀をはじめとする地方が、東京を使って元気になれる。地域の人たちが地域と一緒に東京を使っていける、そんな可能性を秘めていると思います。

もちろん、いいことづくめではありません。今回の企業様たちのように柔軟に理解し、新しい働き方を活かすことができる企業は、まだまだ少ないのが事実です。より多くの個人と企業が、テレワークの可能性を理解し、より豊かな人生に向け活用していくことを切に祈っています。



佐賀における 個人向け・企業向け 研修プロジェクトの発表



Empowered JAPAN が目指す 場所を超えた働き方

人手不足で働き手を探している企業は全国にあります。一方、自分の近くに働く場所がなく、働きたいけれど働けていない方が多数いるという現状があります。そこで、通勤という概念を取り払い、全国の人材と、特に中小企業をつなげる機会を作りたいというのが、私たちの想いです。働きたい個人と働き手を探す企業、その間をソフト、ハード、そして業種を越えたパートナーと一緒に結ぶ。これがEmpowered JAPANプロジェクトの概要です。

具体的に言うと、個人には、既に持っているスキルやこれから身に付けたいスキルがありますが、通勤可能な範囲内では選択肢は限られてしまい、そのスキルを活かせる会社で働くことは困難です。この間を埋めるための教育プログラムを、無償で、全国7都市で提供させていただきます。

佐賀市においては、厚生労働省の「実践型地域雇用創造事業」と連携し、Empowered JAPANの研修を実施します。佐賀駅前アイスクエアビル5F（マイクロソフトイノベーションセンター佐賀フロア）に設置されている佐賀市地域雇用創造協議会の調整によって他にも様々な研修が定期的に提供されており、今後2年間にわたってEmpowered JAPANも連携する予定です。

4つのステップで テレワークの実践を体験

プログラムのステップ1は「マインドセット」です。先ほどの村田さんや堤さん、尾崎さんのお話にあったように、離れた場所で働くためには、対面時なら無意識に受け取ることのできる情報も自分から積極的に取りに行かなければならないため、コミュニケーションの能力が求められます。ですから、コミュ

ニケーションスキルや、前職から離れていた時間的なブランクを埋めるキャリアカウンセリングの取り組みなどを行っています。

ステップ2では、「AI時代におけるITスキル」を身に付けられるようにします。西脇のデモにあったような、Microsoft Officeの様々なAI機能も活用できるよう、基礎的なスキルを学ぶことができます。また、企業にとって最も大きな不安材料である情報漏洩などを意識し、「セキュリティ対策」については今年からは大幅に時間を拡張して、個人向けには6時間、企業向けには3時間の講座を設けています。

ステップ3は「テレワークスキル」です。クラウド技術を使って、離れた場所でも資料や情報を共有し合うスキルを身に付けていただきます。さらに「労務関連」についても学びます。テレワークで働く際には、必ずしも正社員雇用とは限りません。様々な雇用・契約形態に違いや特徴があり、企業も個人もきちんと理解いただく必要があります。また、企業向けには、離れた場所にいる個人を評価する人事制度のあり方や、補助金の詳細などについてもサポートをしていきます。

そしてステップ4が約1週間程度の「テレワークインターン」です。これは個人・企業双方にとってのトレーニングです。実際に離れた場所にいる個人を受け入れてみる、個人は離れた場所にある会社で働いてみる。この経験の共有までを、すべて無償で提供させていただくのがプログラムの全容になります。

A vertical flowchart showing the four steps of the Empowered JAPAN program. Step 1: Mindset (Mindset) with logos for Trist, Allmend, and Kyushu University. Step 2: IT Skills for AI Era (IT Skills for AI Era) with logos for edge, edu*edge, and TRAINOCATE. Step 3: Telework Skills (Telework Skills) with logos for HSI, edu*edge, and Microsoft. Step 4: Telework Internship (Telework Internship) with logos for CAREER BANK and Microsoft. The text for each step is: Step 1: マインドセット (コミュニケーション・チームビルディング・キャリア構築・ビジネススキル); Step 2: AI時代におけるITスキル (セキュリティ・IT・AI活用); Step 3: テレワークスキル (労務関連・クラウドによる共同作業); Step 4: テレワークインターン (実際にテレワーカーとして職場体験、テレワーカーの受け入れ体験).

佐賀から全国へ、そして世界、 未来へ広がる活動を目指す

2019年度は、全国7都市で個人向けのトレーニングを提供します。企業に関しては、東京を含めた全国で募集します。各地で説明会を実施した後、約1カ月程度で、個人向け・企業向けのトレーニングを講師派遣・オンライン中継・オンライン動画などを組み合わせで行います。

また、総務省様を中心に、7月22日から9月6日まで「テレワーク・デイズ」というプロジェクトが行われ、この期間に実際にテレワークを実践する、応援する団体を日本中で募集されている貴重な機会です。Empowered JAPANはテレワーク・デイズに全面的に賛同しており、ぜひ佐賀の企業様もテレワーク・デイズのウェブページから登録をお願いいたします。

Empowered JAPANが目標としているのは、いつでもどこでも誰でも働き、学べることが当たり前の世の中になることです。1年目はまず女性からスタートし、2年目以降は学生の方や、若い方、高齢者の方、様々な方々をターゲットに、地域を拡大していこうと考えています。最終的には、持続可能なモデルとして各地域で自然にこうした活動が回るようになることを目指しています。こうしたプロジェクトの趣旨に賛同いただき、国内の主要パソコンメーカー様に協賛いただくとともに、面接対策やキャリアカウンセリングの部分ではキャリアバンク様に最後の出口までお手伝いさせていただきます。今後も、一緒に取り組んでいただける個人、企業、協賛団体を募っていきます。

最後に、私はマイクロソフトイノベーションセンター佐賀の開設を担当したことで、佐賀の大ファンになりました。この大好きな佐賀から、日本の、そして世界の未来を変えるような活動が広がることを心から楽しみにしております。

日本マイクロソフトから挨拶（クロージング）

この美しい都市・佐賀に、2016年、佐賀市をはじめとする5者連携でマイクロソフトイノベーションセンターを立ち上げることができました。私たち日本マイクロソフトにとって佐賀市は非常に重要な街であり、皆様の協力に感謝申し上げます。

本日は様々なプログラムがあり、長い一日となりましたが、皆様が何か少しでも得るところがあれば幸いです。私自身いろいろな学びがありました。

Empowered JAPANのロゴをご覧ください、JAPANのJが3色で描かれています。この3色は、全国の個人、企業、政府・自治体の三者でパートナーシップを組み、このプロジェクトをともに推進していこう、「いつでもどこでも誰でも、働き、学べる世の中」を実現していこうという意志を表したものです。

私たちマイクロソフトがなぜEmpowered JAPANに参加するのか。それは、マイクロソフトの企業ミッション「地球上のすべての個人とすべての組織が、より多くのことを達成できるようにする」に基づいて活動しているからです。この実現は非常に難しいものですが、多くの方々と一緒に取り組めば叶えていけると思っています。

本日のイベントは、共催の佐賀新聞社をはじめ、スタッフを含めて非常に多くの方に尽力いただきました。何よりも、今回ご参加いただいた皆様方に多大な感謝申し上げます。本日のイベントはこれで

終了しますが、これから始まる大きな動きのスタートとなります。今後の説明会やイベントにも、多数のご参加をお待ちしております。ありがとうございました。

日本マイクロソフト株式会社
執行役員 政策渉外・法務本部長
Empowered JAPAN 実行委員会 副委員長
アリス・グラハム 氏



デバイス協賛パートナー



日本エイサー株式会社



デル株式会社



Dynabook 株式会社



エプソンダイレクト株式会社



富士通株式会社



株式会社日本 HP



レノボ・ジャパン株式会社



パナソニック株式会社



NEC パーソナルコンピュータ株式会社



株式会社サードウェーブ



VAIO 株式会社



日本マイクロソフト株式会社



デバイス協賛パートナーから提供されたノートPCを会場で展示しました。

佐賀市のご案内

佐賀市は、九州の北西部、佐賀県の南東部に位置し、北は福岡市、南は有明海に面する南北に長い形状をしています。

北部地域には脊振山系山麓部の山林や清流が広がり、温泉地やダム湖を有しています。中心部の広大な佐賀平野には田園風景が広がるとともに、明治期の日本の近代化を先導した「幕末維新期の佐賀」の歴史遺産が市街地の各所に残っています。さらに南部地域には、有明海の豊穡な干潟など豊かな自然を見ることができます。

このように各地域に異なる環境が広がるとともに、全国トップレベルの生産量を誇る有明海苔や佐賀牛、日本酒など豊かな食が楽しめるのも、佐賀市の大きな魅力です。

(株)野村総合研究所「成長可能性都市ランキング」
「都市の暮らしやすさ」で全国第1位!
「子育てしながら働ける環境がある」で第3位!

九州佐賀国際空港まで
羽田空港から約110分
成田空港から約120分



JR佐賀駅まで
博多駅から約40分(特急利用)

佐賀市のみどころ

佐賀国際バルーンフェスタ

毎年、10月下旬から11月上旬の5日間、アジア最大級の国際熱気球大会「佐賀国際バルーンフェスタ」を開催しています。

2019佐賀国際バルーンフェスタ
2019年10月31日(木)～11月4日(月)開催



世界各国から参加する100機を超えるバルーンが一斉に離陸する様子は圧巻で、毎年多くの観光客が訪れます。



ラ・モンゴロフィエ・ノクチューン(夜間係留)では、暗闇の中、河川敷一面のバルーンが音楽に合わせて焚かれるバーナーによって照らされます。

佐賀県立 佐賀城本丸歴史館

幕末期、欧米列強がアジアへの進出を強める中で、いち早く時代の変化に危機意識を持ったのが、佐賀藩10代藩主・鍋島直正でした。佐賀藩は藩校「弘道館」や、反射炉、理化学研究所「精煉方」、海軍伝習所などを設置し、藩の軍事力と人材力を強化したことで、明治維新期に大きな役割を果たしました。

「佐賀城本丸歴史館」では、近代日本の礎づくりに躍動した佐賀藩について詳しく知ることができます。



Microsoft AI & Innovation Center (MAIC)

佐賀市には2016年に開設された西日本唯一のMicrosoft AI & Innovation Center (MAIC) があります。現在は佐賀市、佐賀県、佐賀大学、佐賀電算センター、EWMファクトリー、キャリアバンク、日本マイクロソフトの7者連携協定の元、IT人材(IT技術者/IT利用者)の育成を通じた地方創生に挑戦しています。(MAIC佐賀は佐賀駅前、アイスクエアビル5Fに設置されています)





Empowered JAPAN

Empowered JAPAN 実行委員会

事務局 日本マイクロソフト株式会社 〒108-0075 東京都港区港南 2-16-3 品川グランドセントラルタワー

Empowered JAPAN公式URL / <https://www.microsoft.com/ja-jp/mscorp/corporateaffairs/empoweredjapan.aspx>

©2019 Microsoft Corporation, All rights reserved.

●記載されている会社名、製品名、ロゴ等は各社の登録商標です。 ●本レポートの内容は、2019年10月現在のものです。予告なく変更することがあります。

製品に関するお問い合わせは次のインフォメーションをご利用ください。

■インターネットホームページ <http://www.microsoft.com/japan/>

■マイクロソフトカスタマーインフォメーションセンター 0120-41-6755 (9:00 ~ 17:30 土日祝日、弊社指定休業日を除きます)

※電話番号のおかけ間違いにご注意ください。

ご購入に関するお問い合わせはマイクロソフト認定パートナーへ

■マイクロソフト認定パートナー <https://www.microsoft.com/ja-jp/partner/default.aspx>



その時、日本は佐賀を見ていた。
佐賀は世界を見ていた。

そして世界は、佐賀を見ていた。

